

# よえもん

2016年7月

第39号

## 今月のことば



シリーズ  
よえもん

近江聖人



藤樹先生は11歳のとき、『<sup>たいく</sup>大学』の<sup>かみ</sup>一節に<sup>かん</sup>感銘を受け、  
こころは身を修めて立派な人になろうと志を立てた。  
先生は『<sup>たいく</sup>大学』や『<sup>ろんご</sup>論語』など<sup>けいしょ</sup>経書の勉強につとめるだけ  
でなく、その教えを実践しながら、自分の心に<sup>こころ</sup>播いた立派な  
人間になろうと日々努力をつみかたぬいた。

そして、「人は皆平等に<sup>よゆう</sup>良知という美しい心を持って生  
きて来ているのだから、身を<sup>つと</sup>つとめ修養につとめさえすれば、  
だれでも立派な人になれるのだ」との考えに<sup>たもと</sup>基つたのです。  
<sup>ぶつ</sup>儒学では最も立派な人のことを<sup>せいじん</sup>「聖人」といいます。藤樹  
先生は「聖人」と呼ばれるのにふさわしい人になりたいと志を  
立て、門人とともにその道を求めていきました。

非先生は、人には親子の間の自然な感情で  
ある「<sup>あいき</sup>愛敬」の心をもって接する<sup>こと</sup>が大切で  
あると説いています。たがいに相手を認め  
あい、愛あい、尊敬しあう社会こそ、人の道に  
かなったものだ<sup>こと</sup>と信じたのです。

先生の<sup>た</sup>たえおきた<sup>がく</sup>学問の情熱は実を  
言わば、今なお多くの人びとに近江聖人  
とたたえられ尊敬されています。時代がととろに変わっても、  
先生の学問や教えは人々の心の中に生きつづけ、その道は<sup>みち</sup>みち  
と<sup>な</sup>なっていく<sup>こと</sup>でしょう。



「論語」子路第十三 書・淵田瑞穂さん

# 小利と見れば 則ち大事成らず

子夏<sup>しあ</sup>という弟子があるまぢの役人になった時、  
政治の<sup>せうご</sup>要領<sup>ようりやう</sup>について孔子にたたねたとき、  
孔子が答えました。「小利を見れば、<sup>たいじ</sup>大事  
成らず」と。

「何事も短い時間で<sup>とく</sup>とれた利益を得ようと  
あせつてはいけません。小さな利益<sup>りやく</sup>が  
たくさんあると、大きなことを見おこす<sup>こと</sup>が  
かたくな<sup>こと</sup>になってしまふ<sup>こと</sup>という意味です。

私たちは、小利のことばかりを<sup>しん</sup>視野<sup>し</sup>に  
おくと、本当に大きなことに<sup>ちから</sup>ちから  
がつかない<sup>こと</sup>になってしまふ<sup>こと</sup>です。その<sup>こと</sup>に  
おぼしめておきましょう。

### 小学生のみたさんへ

もうすぐ夏休みですね。  
言念館では今年も人一倍努力して医者になった大野了左にたさい、「了左でら<sup>にや</sup>小学校」  
を開校します。

今回も昨年同様、『論語』の素読と習字、科学実験やものづくりなど楽しい予定がいっぱい  
です。みなさんのご参加、お待ちしております。

申込みしめきり：7月21日

近江聖人中江藤樹記念館

高島市安曇川町上小川69 TEL/FAX (0740)-32-0330

